
野口君観察日記。題名は変え・・・るのかな？。

inisie

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

1話・副題を考えるのがめんどくさい。(前書き)

第一話というより零話に近いです。
登場人物の自己紹介のお話ですね。

1話・副題を考えるのがめんどくさい。(後書き)

この度は見て頂きありがとうございます。
第2話でお会いしましょう。

2話・異世界ものじゃなくて学園物？（前書き）

第2話です。

学校パート終了です。

さて、勝手に動いていくキャラクター達に翻弄されながら頑張っていると思います。

前後の会話も気になる所だが、思い出せるのは野口君が謝罪をし、私はその謝罪を受け取っている。その場面しか夢の記憶がない。

ふむ…まあいいだろう。もし正夢なのならば逆夢にしてしまえばいいのだから。

キスでもすれば大丈夫だろう。

…ん？野口君の様子が変だな。頭がふらふらしてる。眠いのか？先程のアレでは目が覚めなかったのか？

いや、おかしい10年以上野口君を見てきた私だから言えるあの様子はおかしい。

倒れてもおかしくなさそうだな。すぐに動けるように…

…背中が光った？いや…野口君が光ってるように見…私は走り出した。

間に合ってくれ。

野口君が消えそうだ。

体の半分が消えている。

指が消えるその一瞬。

私の中指が引つ掛かった。

ふう… 一体君は何度面白い場面を見せてくれるのかな。

金色に輝きだしたときは某サイヤ人にでもなるのかと思ったよ。

薄れる思考の中で、そんな事を考えていた。

3話・異世界もの。(前書き)

本番開始。

った場合と先程の眩暈。
どうするか。

・・・野口君。君ならどうする？皆を引っ張って来た君なら・・・

3話・異世界もの。(後書き)

第3話の終了。異世界編開始です。

次からは野口君探しの旅へ。いけるのか・・・？

4話：他人のフラゲプレイカ（前書き）

異世界編第2話。

私がいる限り、そのフラグをバキバキにたたき折って差し上げましょう。

4話・他人のフラゲプレイカ（後書き）

第4話終了。

6話・緊縛？なにそれ美味しいの？（後書き）

6話終了。

皆様見て頂き有難うございます。

7話…どうなるこつなる？（前書き）

7話投稿完了。

日曜日は失礼致しました。

毎日投稿をするつもりでしたが、仕事が忙しく10人もの方が見てくれたにも関わらず投稿できずでした。

火曜が休みのため火曜日に4話から3話投稿しようと思っています。

是非、変わらぬご愛読をよろしく願います。

・・・お気に入りか2件なのに後の8人はどこから来たのだろう・・・

・
最底辺ランキングとかで来てくれたのかな。

7話…どっになるのっ…(後書き)

6話終了。

野口君死亡フラグがたっ
てきております。
はてさてどっになるのっやう。

8話：説明回。（前書き）

8話説明回。

ちょっとしたことの説明ですね。

20時ぐらいにもう1話いきます。

9話・RPG風な異世界（後書き）

見て頂きありがとうございました。

まあ5分で見終わるぐらいの量なので、他の面白い小説までの場繋ぎにでも使ってください。

では。

10話・回想という名の妄想2（前書き）

まずは、クリックありがとうございます。

お気に入りが増え3件になりました。

評価を付けて頂きありがとうございます。

評価が付いて居ない作品も沢山ある中、点数を付けて頂けるこの作品は幸せ者なんでしょう。

後、昨日のPVが異常でした。

この4日間のPV数と昨日1日のPV数がほぼ同数。

どうなっているんだ。。。。

では回想回2回目。

11話・うさぎすーぷ。(後書き)

読んで頂きありがとうございます。

ウサギ肉は食べた時はないですね。

ジンギスカンは匂いがきついですが美味しいのですから。

ウサギもそこそこ美味しいのでしょうか・・・

今日中に12話は投稿予定です。

12話・幸せはどこにある。(前書き)

クリックありがとうございます。

お気に入りかいつの間にか4件になっていました。

次は5件を目指して頑張ろうと思います。

では第12話どうぞ。

12話・幸せはどこにある。(後書き)

読んで頂いてありがとうございます。

そろそろ王都へ到着。

11/2からは1日2話の予定でいきます。

日曜日と祝日はどうするかな。と考え中。

最低でも1話はあげますので、よろしくお願いします。

13話：料理回またはお菓子回（前書き）

朝投稿するつもりでしたがエラーにより投稿出来ませんでした。
読んでいただける多くの方に謝礼を。

読んでいただけて初めて小説は完成ですからね。

では13話をどうぞ。

14話・覚悟、そして勇者と。(前書き)

14話投稿完了。

先日は1日でユニークユーザーが50人を超えました。

ありがとうございます。

次は1日でユニーク100人を目標として頑張っていきます。

では14話ぐいす。

14話・覚悟、そして勇者と。(後書き)

14話を読んで頂きありがとうございます。
野口君と出会えました。

あちらはききすぎてないようですけども。

では、また明日。

16話：城へ。(前書き)

16話なんとかできました。

1日2話は出来るだけ頑張っていると思います。

16話：城へ。（後書き）

見て頂きありがとうございます。

本当はもう少し描写を入れたかったのですが、時間があまり無かったのでこのくらいで。もしかしたらこのページは大きく改訂する可能性があります。

けども流れは変わらないと思います。

最後の準備。城へ行くまで。これは絶対に変わらないです。

改訂があつたとしても内容は変わらないので安心してください。

もしかしたら伏線いれてくるかもしれませんが。

本当に次の投稿は明日となります。

野口君には明日確実に会えるでしょう。

では皆様よい祝日を。

私は4日の朝2時まで仕事です。

17話：心理戦。(後書き)

読んで頂きありがとうございます。

17話からは今までと少し雰囲気が変わってきています。
やはり野口君が近づいてきているからでしょうね。

18話は15時頃を予定しています。

18話：再会。（前書き）

18話投稿完了。

4時になってしまいましたね。

仕事が終わったのが2時半過ぎていたので申し訳ない。

お気に入りかいつの間にか6件になっていました。

6人の方。それに加えユニークユーザーの方達が右肩上がりが増えてきました。

これからも宜しく願いいたします。

では18話再会。どうぞ。

18話：再会。

「シュタイン様お待ちしておりました。皆様揃っております。こちらの方はミナミ・シュタイン様でよろしかったですか？」

頷く。お義父様は何も喋りませんね。

「くつきーと言いましたか？私も1袋もらいました。ありがとうございました。ございます。後で食べさせて頂きます。」

いえいえ。

鎧を着けたおじさんがくつきーと言っていますね。何かシユールです。違和感がたつぷりです。

「シュタイン様、シュタイン様息女ミナミ様。入られます！」

・・・大きい部屋ですね。体育館並ですね。あ、美味しそう。甘そうなのもあるじゃないですか。

ああ・・・砂糖は調味料と言ってましたね。デザートが無いとは言っていないのです。

外で持ち歩けるような甘味が無いだけでしたか。料理人の人達ごめんなさい。美味しそうです。

「ミナミ。度胸があるのはいいが前を見る。」

はい。美味しそうなので。つい。

こちらを皆さん見えていますね。

お義父様についていけばいいのですかね。

一際綺麗な椅子の横にある椅子に座りましたね。

あれが王様の椅子ですか。高そうですね。

皇王とはどんな方なのでしょう。

イメージは結構白ひげの生えたお爺さんのイメージなのですが。

あれ？私の椅子はないのでしょうか。

「横に立て。」

そうでしたか。皆さん立っていますしね。偉い人だけなのでしょう。

「皇王イスターナ様。入られます！」

王様が来ましたか。

・・・でっかい。筋骨隆々という言葉がぴったりきますね。野口君より大きいのでは。

歳はどれぐらいでしょう・・・50代・・・いやこれはもしかして。

「シユタイン久しぶりだな。よく来てくれた。」

「お久しぶりですイスターナ様。お呼び頂きありがとうございます。私の娘のミナミです。挨拶をしろ。」

お初お目にかかります。ミナミ・シユタインと申します。

ドレスの裾を持って挨拶挨拶と。

「ほお・・・黒髪、黒いドレス、黒の装飾。漆黒か勇者と一緒だな。その石も華も悪くない。良い趣味をしているな。」

「ありがとうございます。褒めて頂いたぞ。ミナミ。良かったな。」
ええ。ありがとうございます。褒めて頂いた経験などあまり無いので嬉しいばかりです。服ばかりなのが残念ですが。

「ふっあっはっはっ！シユタインお前の娘は面白いな。顔を褒めると直接言つて来た奴は初めてみたぞ。勿論良い女じゃないか。ワシが後50年は若ければ娶つてやったのだがな。」
ありがとうございます。

やっぱりか。70歳前後と。見た目以上に歳をとっていると思つたが70歳を超えているとは思わなかった。

「いえいえ。そこまで褒めなくて結構です。調子に乗りますから。家に帰ってからが大変になりそうだ。」

うるさいですよ。

なつてしまえ。」

ええ、任せて下さい。

野口君、フフフフフ。

早くゆっくりと話がしたいよ。

っとその前に・・・クッキーの件と・・・この視線の量をなんとかしなければ。

・・・そんなに黒髪が珍しいのだろうか。

珍しいのだろうね。

今ならどんな質問にも答えてあげようじゃないか。

気分が良すぎるね。

ああ・・・スリーサイズだけは言わないけどね。絶対にね！

特に胸を見ていた。その人とは話もしたくないね。

女は胸じゃないのだよ胸じゃ・・・。

18話：再会。（後書き）

読んで頂きありがとうございます。

18話再会終わりました。

19話目は明日投稿となります。

では皆様明日またお会いしましょう。

追記：数時間話数を間違えていた。

次の話を考えていてきずいた…

誰かつつこんでくれ！

寝ぼけていると駄目ですね。

19話・思い出と共に。(前書き)

19話です。

見て頂きありがとうございます。

眩暈かと思ったけれども頭痛はしていないようだね。

ん？広間のほうの音が無くなった？

どうしたんだろう？

お姫様が来たからかな？

眩暈がした。

「思い出の品というわけですか。」

「運がいいですね。」

「無理やりでもいいのですよ？」

気持ち悪いな・・・なんだ今のは。

つと野口君？野口君！起きないね。なんでまた・・・？

「お久しぶりです。南さん？」

後から声がしたね。

聞いた事がある声だけでも。

振り向かないほうが良いと思うだが・・・振り向かないと駄目なの
でしょう？。

「始めまして。ノーラ・イスターナと申します。」

先程久しぶりと言っていたよ？

「そうですね。お久しぶりです。1ヶ月ぶりですね。」

ふう・・・やっぱりそうなんだね？

絢子さん？

どうしたんだい？

金髪になんて染めて髪が伸びてしまっ

エクスステかい？

「落ち着いていますね。貴女はやっぱり貴女らしいと。」
落ち着いてるように見せているだけだよ。
聞きたいことは沢山ある。

「答える気はありませんよ？」

そうだろうね。

一つだけ聞かせてくれ。

野口君は大丈夫なのかい？

「ええ、大丈夫ですよ体に異常はありません。」
そうか。

記憶を消したのか私の事を忘れさせたのかは分からないが、それも
絢子さん君の仕業かい？

「さあ？どうでしょう？」

答えているのと同義だよ。

そのような笑顔で答えている時点だね。

「外へ行きませんか？」

雨が降っているのだが？
後、外に出れるのかい？

一応絢子さんはお姫様なのだろう？

「ええ全員寝ていますよ。貴方のお義父様。シュタイン様もね。」
お義父様。大事な時に役に立ちませんね。

・・・雨か・・・私は雨女なのかな？

嫌な時はいつも雨な気がするよ。

「南さん。日本に帰って下さい。」
何故だい？

「貴女が厄災の可能性があります。
ここに居られると困りますね。」

災害を起こすのなら、この国には居ないでください。」

では、野口君の記憶を戻してもらおうか？
後、野口君も一緒に帰らせてもらおう。」

「無理な相談ですね。」

ああ、平行線だね。」

・・・暑い・・・

水蒸気ですごい事になっているね。霧のようだ。
火の弾を出したと思ったたら水の壁とは。

やっぱりさっきの水のようなものは絢子さんか。

蒸気が消えないね。水を使う?となると・・・この蒸気も操れる?

「ふふつ。ねえ南さん?水蒸気爆発って言葉はご存知?」

舌打ちしたくなるね。

どこから私が火を出すと・・・ああ1回だけ使ってしまったな。あの村か。

私がいると分かっていたのだね。

それに加えて、応用が出来るのはあちらと・・・。

冷静に考えれば考える程、私が不利だね。

・・・女の子は殴りたくはないがね。きちんと入れれば・・・。

・・・空を飛んでる?

え?

なに？

痛い。

・・・すごい痛い。

地面に着いた？

体が動かない。

なに？今は？

・・・え？

野口君が見えた？

雨の中走ってきている？

どうして？

「ノーラ！どうした！？ドレスが燃えているじゃないか！」

野口君？

どうして？

「ええ・・・ちょっとした事ですよ。」

何故・・・？

私が見えないの？

なんで？

どうして？

どうして私を見てくれないのです！

「泥棒猫さんが来たので追い払っただけです。」

・・・血は出ていないね

・・・記憶を無くす

・・・水を使う

・・・全てを水に流すとても言うのか？。

・・・思い出も記憶も

・・・そして私の姿も隠す事が出来ると。

・・・なんだその便利な力は・・・。

野口君も

お義父様も

マールさんも

ルックさんも

私のことは覚えていないのか。

そうか。

そうなのか。

私はここまで来て、

・・・また一人になってしまったのか。

・・・私が生きてきた18年はなんだったんだろっな・・・。

・・・野口君と出会って10年以上・・・。

今まで一度も君を恨むということはなかったよ・・・どんなことがあると。

だが・・・野口君。

君は嘘つきだよ・・・。

そこから先、私は意識を放棄した。

19話：思い出と共に。（後書き）

19話読んで頂きありがとうございます。
書いていてうーんとなる話でした。

読者の皆さんが納得して頂ければ嬉しいです。

次は20話。大体の人はそろそろ20話の題名は想像がついてきそ
うですね。

では、第20話でお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9645x/>

野口君観察日記。題名は変え・・・るのかな？。

2011年11月5日05時12分発行